

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2393400060		
法人名	有限会社 ふなびきメディカル		
事業所名	グループホームかがやき		
所在地	〒484-0064 愛知県犬山市前原西3丁目35番地2		
自己評価作成日	平成27年10月25日	評価結果市町村受理日	平成28年2月16日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	福祉総合研究所株式会社		
所在地	名古屋市東区百人町26 スクエア百人町1F		
訪問調査日	平成27年11月18日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

運営理念にある 人と人の触れ合いを大切にし一人ひとりが笑顔でその人らしく笑顔で生活していただけるように支援する事を心がけています。ホームではいつも笑顔で笑いが絶えないような日々の暮らしをモットーとしています。日常生活の中で疑問や不安があった際にはスタッフ同士で話し合い疑問解決に努めています。経営母体に有床診療所が併設されているので、医療面での連携があり 緊急時の早期対応や健康管理が行えるので 安心して生活して頂けます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

広大な敷地には同法人の医療機関やグループホーム、デイサービス等の介護事業所があり、随時適切な診療が受けられ利用者や家族の安心に繋がっている。また、新設されたデイサービスとは日常的な交流を図り、地域住民との友好関係を深めている。近年の利用者の重度化にも職員が試行錯誤しながらアイデアを出しあい、状態が悪くならないようボールを使った競技や運動会等の皆で楽しく体を動かせるレクリエーションを提供し、利用者の笑顔やホーム全体の活性にも繋がっている。今年度、消防署との連携を図り、推進会議時に防災についての講習会や避難訓練を実施した。多くの利用者家族が参加し、防災意識を共有し、安心にも繋がっている。近隣に住居が少ない環境ではあるが、法人全体の認知度を活かし、地域での更なる活躍が期待できる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「笑顔でその人らしく生活していただけるように」を理念に、その都度の対応ができるよう話し合いを密にし日々のサポートを行っている	理念は、月一回の会議の際に唱和すると共に日頃の申し送り等で話題に挙げ、意識づけしている。職員は笑顔が絶えない支援を心掛け、実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	推進会議に地元自治会、老人会に参加を呼び掛けている。地元のウォーキングクラブに登録し、参加している。消防署の立ち合いにて災害時の訓練も行っている。行事には地域の子供も参加している	今年の夏祭りや運動会では地域の子供の参加があり、大盛況となった。地域主催のウォーキング大会には利用者も参加し、多くの住民との交流があり友好関係が深まった。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域住民の見学を自由に受け入れている。認知症の勉強会の参加の呼びかけは行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の報告書を作成し、全ての関係者に配布している。議題で上がったことに関しては職員でのミーティングにて話し合いを行っている。必要時は事業所全体でのミーティングに報告も行なっている	今年度は防災についての取り組みを徹底し、推進会議時に消防署の立ち合いの避難訓練を行ったり、署員による災害時の対応についての勉強会を開催した。災害時の問題点を共有し実情を伝える良い機会となった。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営会議の参加時や、ホームのたよりの送付による活動報告。日頃からの相談、情報提供を行っている。介護相談員の受け入れも行ない利用者の相談相手や、運営状況を見て頂いている	他の市町村からの入居の問い合わせがあり、その際には市担当者に相談している。ホーム便りと共に推進会議の案内状を送り、良い関係性を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的に勉強会を行い、日頃から身体拘束の事例の検討、禁止行為の確認をしている。	身体拘束のマニュアルを整備し、勉強会を実施している。やむを得ずベルトやミトンが必要な人には本人や家族の同意を得ているが、本人のその日の様子を見て対応する等の負担を減らす工夫が見られる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に勉強会を行い、知識、意識の向上に努め 虐待についての事例の検討、禁止行為の確認をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、日常生活自立支援事業等の対象者はいないが、必要時の支援が円滑にできるようミーティング時に定期的に研修を行い制度の理解に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に十分な説明を行い理解を得られるようにしている。契約後も質問、問い合わせには随時対応している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時及び必要時に応じて家族には利用者の様子や状態を報告している。問題点や改善点が必要な場合はミーティングにて話し合いをし解決に努めている。推進会議の案内にて意見を伺う用紙も配布し報告している	家族の面会時にその都度日頃の様子を伝え、要望が直接言いやすい関係を築いている。要望や意見は職員間で共有し、改善につなげている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者には問題、事例発生時に報告し月1回の法人全体の会議にて運営状況、職員の意見の提案をしている。職員の意見はミーティングにて意見、提案を出してもらい報告を行っている。	管理者は職員とのコミュニケーションを密に図り、些細な疑問等にはその都度話を聴いたり申し送り等で議題に挙げ皆で話し合ったりして、改善に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、就業規則に基づき、職員がやりがいや向上心をもてる職場環境となるように配慮している。また、週2、3回はホームを訪れ 職場環境の把握や、職員への声掛けも行なっている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は、実践者研修、県主催の研修等の外部研修への案内、参加への働きかけがあり可能な限りの参加をさせて頂いている。(法人内)の研修や、勉強会も非定期的に行われている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他事業者の施設見学や、犬山市主催の多職種連携会議への参加も行なっている。営業活動時の、他事業者との情報交換や、相談などを行いサービス向上への取り組みを行なっている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人面談時からの、アセスメントに基づきミーティングにて職員同士が情報共有をすることにより 本人のニーズに対して職員が同じ対応をすることで安心と信頼づくりができるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	施設見学時や、問い合わせ時、契約時にアセスメントを行う事で家族のニーズをサービスにつなげている。必要時には本人様とは別での面談を家族と行い自宅での様子や今後の要望を伺っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族との面談でのアセスメントを行い必要時に応じて他事業所(他施設 居宅 包括)に相談しながら何が今必要かの情報を収集し、出来る限りの対応をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の生活の中で、食事や洗濯物干し等同じ生活者の仲間として一緒に楽しんで行っている。日常生活においては先輩として利用者の方からは、色々な知恵などを得て日々の業務に生かしている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事への参加の呼びかけや、面会時に日常の様子を伝えたり、ホームから相談したりしながら家族の思いがいつでも気軽に聞けるような関係をもち共に支援できる環境づくりを築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入所以前の生活スタイルが保たれるよう できる範囲での外出支援など行っている。	図書館によく通っていた利用者の希望で本を借りに行ったり、墓参りに出掛けたりして、利用者の馴染みのある場への外出を支援している。定期的に行く喫茶店が新しい馴染みの場となり、慣れ親しんだ関係を築いている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	それぞれの利用者の得意としてきた事、活躍できる場所を職員で話し合い、活かすことにより皆の生活が楽しめるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院時のお見舞いや、電話連絡を行い情報の共有をし、退院時の際の相談も行なっている。退所された方からの、お知り合いの方の入所相談も行いました		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の思いや希望が自由に伝えられるようにコミュニケーションを多くとれるような環境をつくっている。必要に応じて個別での外出支援を行ったりしている。事例困難な際は家族への協力を依頼している。	一人ひとりに職員が寄り添い、利用者の「なんで？」や「これをしたい」という言葉に向き合い対応ができることは行い、個別対応は難しいことは家族に伝え協力を仰ぎ、意向に沿った支援をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時の本人や家族との面談、他事業所利用時の際は利用事業所などからの情報収集によるアセスメント、生活歴の状況書の作成を行い職員のミーティングにて情報共有している		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の個人記録に1日の行動、言動 身体精神状態の記録を行い、毎日の申し送りやミーティングにて現状の把握を行っている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族からの意見や要望 モニタリングなどから職員で話し合い現状に合った計画を作成するようにしている。各施設からのアイデアなども参考に作成している	認定期間を基準に、法人内の通所のケアマネージャーなどからアドバイスをもらいながら、ミーティングで職員間で話し合い計画書を作っている。家族に説明の機会を設け、状態に変化があればその都度変更をしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の個人記録に 行動 言動 健康状態や精神状態を記録し、毎日の申し送りやミーティングにて現状把握を行い必要時には介護計画の見直しを行っている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	通院や図書館 自宅等への外出支援など利用者や家族の要望状況に応じて対応している。同一法人内の施設とも交流を持ち対応できるようにしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域住民のボランティアや、小中学校の職場体験などの受け入れを積極的に受け入れている。文化・趣味などの交流を図り楽しんで頂いている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	同一敷地内での医療機関により、月2回の往診や必要毎の往診を行って頂いている。(24時間対応) 家族の希望での他医療機関への受診や専門医の往診も行なって頂いている	同一敷地内の法人医療機関を協力医とし、24時間対応可能である。もともとのかかりつけ医を希望する利用者は家族対応で継続している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師とは24時間の連携対応しており、体調変化時は随時連絡している。看護師宛の申し送りノートにて個々の体調管理に努めている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	同一敷地内での入院時は常に情報提供を受け体制を整えると共に対応についての相談をしている。他病院での入院時には見舞いをするとともに病状の情報収集や、相談をしながら退院時の対応を円滑に行えるように連携をしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入院時の医師からの状態説明の後や、重度化した際の看取りの説明、終末期支援のあり方の相談を家族と行っている。医師 看護師 ケアマネ 家族と話し合い今後の相談をしたうえでミーティング等で情報共有している	隣接する医療機関があることから、家族、利用者の希望があれば事業所での終末期ケアにも対応できる。その場合は協力医と事業所管理者、家族を交えた話し合いがもたれ、職員間でも勉強会を設けた上で支援を行う。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故発生時、救急の際の対応の仕方の勉強会を行っている。AEDの講習も消防署の方に講義して頂きいろいろな場面での対応を学んでいる		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	法人全体での避難訓練・防災訓練を年2回行っている。ホーム独自での訓練も行い、消防署立ち合いでの災害時の状況把握を行って頂いている	法人全体での避難訓練が年に二度、事業所独自での避難訓練も年に二度行われている。家族から防災や避難について質問があったことから、今年度は消防署から事業所へ検証にきてもらい同時に防災の講話もしてもらった。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入浴時や、トイレでの排泄時にはご本人のプライバシーに配慮して対応している。個人的な相談の際は居室での対応をしている	職員は利用者個室へは必ず声掛け、ノックをして入室し、排泄介助でも同様にプライバシーに配慮した支援を行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の能力・状態に合わせて本人の希望を聞いたり自己決定できるような環境づくりをしている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務を優先させないように、常に本人の希望や状況を判断しながら その人らしい生活が送れるように心がけている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	希望に沿って理美容院を利用している。季節に応じた服装になるように家族にも季節ごとの衣類の交換をお願いしている。化粧をされている方や、ひげをそられる方にはその人の生活リズムに合わせている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	朝に献立の説明を行い食事の楽しみを持っていただいている。お菓子作りや、食事の準備を職員と一緒にいられるようにしている。準備、配膳、下膳もできる方と一緒にやっている	昼、夜の食事は法人の厨房で作られており、利用者は配膳や下膳などできることを手伝っている。おやつ作りを徐々に行っているが、喫茶店へのモーニングだけではなく、おやつを食べに行くということも行っていきたい。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個人記録にて摂取量の把握を行っている。摂取が困難な際には法人内の栄養士や看護師に相談しながら摂取できるよう支援している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを働きかけている。自身でできる方は歯磨き 入れ歯洗浄を行って頂き 自身でできない場合は介助しながら行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々に声掛けを行い排泄リズムを整えている。おむつになりがちなので、夜間での声掛けでのPT使用やトイレ誘導も個々で行っている	排泄チェック表があり、個々の排泄リズムやその日その日の調子にあわせ、声掛け誘導を行い、なるべく利用者の現状維持ができるよう努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の体操や散歩を行っている。天気の良い日には距離をのばして散歩したり 食事の工夫や水分摂取量が出来る限りとれるよう 個々に対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日は決めているが、体調にあわせて入浴日以外でも入浴をその都度行っている	入浴は週に2回を基本としているが、利用者の希望があれば入浴は可能である。拒否が見られると、声掛けや職員の交代、あるいは時間をかえて気持ちよく入ってもらえるよう努めている。しょうぶ湯など変わり湯も取り入れている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活パターンを把握し、寝付けない際は話を聞いたり、一緒に飲み物を飲んだりしながら安眠できるようにしている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人記録に薬剤情報をファイルし、職員も把握できるようにしている。臨時薬の服用の際は看護師からの服用後の状況説明を受け、申し送りを行う事で症状の変化の確認をしている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の生活歴の状態に合わせて、役割を決めて生活に張り合いを持って頂けるよう支援している。喫茶店に出かけたり、問題シートや歌など行って頂き気分転換になるよう支援している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	天候がいい日には ホームの外周散歩や、喫茶店へのお出かけ、民俗資料館での催しの参加 花見 ドライブを行っている。個別では読書が希望の方とは図書館へも出かけている	散歩は日課であり、広大な法人敷地、あるいは近所の田んぼのあぜ道などをゆっくり歩いている。喫茶店や花見、あるいはドライブ、買い物などに出向くこともある。皆で民族資料館へ出かけた時には利用者の笑顔があふれた。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	立替金での会計処理をしているため、個人でのお金の持参は家族の了解を得て行っていない		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙のやり取りの希望がないため 行っていないが電話での連絡のやりとりは希望時に行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有部分での使用については、不快感や混乱を招くような事がないように配慮している。玄関や玄関先では花等を栽培、設置することで季節感を味わって頂けるようにしている	2ユニット分の居間は広く、ゆったりとしており、日中はソファでくつろいだり、ダイニングテーブルで過ごす姿が見られた。皆で作った季節の飾り物が窓に飾られている。季節ごとに製作物を替えていく予定である。また、テーブルなどを片付け、居間で行うレクリエーションも利用者の楽しみである。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアのソファでテレビを観たり、会話を楽しんだり 居室で思い思い過ごされたり 個々が自由に過ごされるよう自宅での生活と変わらないような生活が送れるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅での使い慣れた家具などを入居時に家族に相談して持ってきて頂いて、少しでも自宅と変わらない安心した生活が送れるような工夫をしている。	居室は一部屋ずつ壁紙やカーテンが違っており、それぞれが馴染みの家具や寝具を持ち込み、自分の部屋という感じを持てるようになっている。また、家族の写真を飾ったりしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	浴室やトイレ 廊下の手すりなどを設置し移動時に自身で移動できるようにしている。トイレや居室の表示をわかりやすくし個々の状態に合わせた環境を整えている		